

2022年11月1日

日本イーライリリー株式会社  
〒651-0086  
神戸市中央区磯上通 5-1-28  
www.lilly.co.jp

EL22-46

大学生が片頭痛や生理痛など他者の“見えないつらさ”を想像する「カードゲーム」にチャレンジ！

## “目には見えにくい”健康課題の理解促進に向けて

### 「『みえない多様性』ワークショップ at 慶應義塾大学」を開催

～企業・自治体・専門家などが共同で取り組む『みえない多様性 PROJECT』初の大学コラボ企画～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:シモーネ・トムセン、以下「日本イーライリリー」)は、企業・自治体・専門家と共同で取り組む「みえない多様性 PROJECT」の新たな展開として、慶應義塾大学と共に、本プロジェクト初となる大学生とのワークショップイベントを10月28日(金)に慶應義塾大学・三田キャンパス(東京)で実施しました。

当社は、「世界中の人々のより豊かな人生のため、革新的医薬品に思いやりをこめて」を使命とし、製薬企業として、医薬品を通じた病気の治療のみならず、多様な疾患を抱える人々が暮らしやすい社会の実現への貢献にも取り組んでいます。その一環として、2020年に「みえない多様性 PROJECT」を発足し、これまで企業・自治体・専門家と共に取り組んできました。

慶應義塾大学では、従来からお互いの人格を尊重し多様な価値観を認め協力して生きるための環境を構築し、多様性の受容に関する課題に迅速に対処するための様々な取り組みを行っており、このたび、「みえない多様性 PROJECT」の趣旨に共感いただき、共同でワークショップを開催する運びとなりました。



サークル or ゼミで

いつも話を盛り上げてくれる人が今日は不機嫌そうな顔をして話し合いに全然参加してくれない。

なぜだろう？

※この事実の背景に存在するかもしれない「もしかしたら？」を考えてみよう。

#### 【「みえない多様性 PROJECT」とは？ ～痛みや不調がみえない病気に寄り添う社会へ～】

片頭痛や生理痛、腰痛などの痛みや不調は、周囲の人にみえないことから理解してもらうことが難しく、人知れずつらさを我慢している人たちがいます。日本イーライリリーは、このような“症状の可視化が難しく、つらさや支障の認知が低い健康課題”を「みえない多様性」と定義。不安やつらさを抱える当事者と、その周囲にいる人が互いに理解し合い、誰もが安心して働ける職場づくりを目指し、2020年にプロジェクトを発足しました。

みえない  
多様性  
PROJECT

#### ■プロジェクト初となる大学生とのワークショップ実施の背景・目的

- 片頭痛や生理痛などの周囲から見えづらい健康課題は10代の頃から発症することも多いことから、職場のみならず学校や地域とも一緒になって、「みえない多様性」の存在を想像・理解し、どう受け入れていくか、対応していくかを考え、自分や周囲の人々にそういった課題があった際に支え合っていけるコミュニティ・社会づくりを目指しています。
- 就職など、これから社会とのつながりや多様な価値観に触れる機会がますます広がっていく大学生が、カードゲームを通じて、誰もが当事者になりうる「病気や体の不調」の観点で、他者の背景を想像することで、多様な違い・考え・価値観に気付くとともに、相手の立場で考えることや、「ダイバーシティ(多様性)とは何か？」を考える機会を提供したいと考えました。

## ■学生たちが他者の”みえないつらさ”を想像する「カードゲーム」を実践

ワークショップには、23名の学生が参加。前半の講義では、日本イーライリリーから、「みえない多様性」の考え方や影響について、代表的な疾患の一つである片頭痛を例に紹介。後半のグループワークでは、みえない多様性 PROJECT で開発した「ストーリーカード」を用い、他者の見えないつらさを想像するカードゲームを実践。ディスカッションのテーマとして掲げるシーンカードは、今回の大学コラボレーションによるワークショップのために新たに開発した、学生に親しみのあるものを使用しました。そして、周囲の人から見ると、一見不可解に思えたり、自己中心的な振る舞いに見えたりする他者の行動でも、実はその裏には「もしかしたら周囲からは見えない病気や不調など何か隠れた理由＝“みえない多様性”があるのかもしれない」と当事者の立場になって想像し、どのように理解し、受け入れ、対応していくのかについて話し合いました。

### <参加した学生の方々の声>

- ・身体的な苦しさ、その苦しさを他の人に言えないことで苦しみが増えてしまうという、社会的な苦しみの2種類があるということに気付いた。社会的な面での苦しさを取り除くためには、言いたいことを何でも言えるようなオープンな環境が求められているのだろうと思った。ただ、プライバシーなことをどこまで伝えていいのか、聞く側もどこまで聞いていいのか。その二つのバランスをとることも重要。
- ・同じグループの人の話を聞く中で、過去にあった自分の周囲の人の行動を思い出し、「もしかしたらあの時、あの人にはそういう理由があったのかもしれない」と気づけた。
- ・自分に何ができるか考えたときに、「どのような病気があるのか」「隠れているものがある」ということを知るだけでも当事者にとっては支えになり、多様性を理解していくという観点でも大事なことだと感じた。
- ・グループで話し合う中で、「実は私・・・」と体の不調や悩み事なども共有した。印象的だったのは、今まで周りの人に言っていなかったことが、話してみると意外と周囲の人と共感できることがたくさんあるということ。

### <ワークショップ概要>

- ・実施日：2022年10月28日(金)
- ・実施場所：慶應義塾大学 三田キャンパス
- ・参加者数：慶應義塾の大学生、大学院生 23名
- ・共催：日本イーライリリー株式会社、  
慶應義塾大学 メディア・コミュニケーション研究所
- ・内容：「みえない多様性」ワークショップ at 慶應義塾大学  
(1)「みえない多様性 PROJECT」の紹介  
(2)「みえない多様性」の代表疾患(片頭痛)に関するレクチャー(講義)  
(3)他者の“みえないつらさ”を想像するカードゲーム(グループワーク)



日本イーライリリーは、「みえない多様性」の問題は職場にかぎらず、学校や家庭でも同様に存在すると考え、この活動を学校や地域のみならずとも一緒に広め、あらゆる健康課題を抱える人、その周囲の人、全ての人が多様な背景を相互理解することで支え合い、寄り添う社会づくりを進めていきます。

### 日本イーライリリー株式会社について

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.lilly.co.jp>

## 参考資料：「みえない多様性 PROJECT」について

～有志企業・団体、自治体、医療従事者、健康経営専門家と連携  
職場で我慢しがちな、周囲から見えづらい健康課題の問題に取り組む～

みえない  
多様性  
PROJECT



### ■健康経営の隠れた課題 職場における「みえない多様性」

数ある健康課題のなかでも、片頭痛などの頭痛や腰痛、生理痛などの痛みや不調は、時に仕事に支障をきたすことがあります。しかし、その痛みや不調は他人にみえないことから周囲の人に理解してもらうことが難しく、結果的に一人でそのつらさも抱え、我慢しながら働いている人たちがいます。日本イーライリリーは、このような“症状の可視化が難しく、つらさや支障の認知が低い健康課題”を、「みえない多様性」と定義しました。

### ■プロジェクト発足のきっかけは、社内の「ヘンズツウ部」の活動から

日本イーライリリーは、片頭痛をはじめ、さまざまな健康課題に付随した症状に伴う、みえない不安や支障、つらさを抱えながら当事者と周囲の人が共に働きやすい職場づくりを目指し、2020年、社内活動だった「ヘンズツウ部」を発展させ、**様々な企業・団体、自治体、専門家に呼び掛け、「みえない多様性プロジェクト」を共同で立ち上げました。**



「ヘンズツウ部」WEB サイト：<https://www.lilly.co.jp/news/stories/henzutoo>

#### ●プロジェクト参画企業・自治体

株式会社アシックス、日本イーライリリー株式会社、株式会社パナソニック、明治安田生命保険相互会社神戸支社、神戸市

#### ●協力企業

ネスレ日本株式会社 バンドー化学株式会社

### ■周囲からみえにくい健康課題を相互理解するワークショップツールを開発、社内外でのワークショップ開催

本プロジェクトでは参画企業・自治体と議論を重ね、健康経営®の専門家と医師にも監修頂き、当事者と周囲の相互理解を促し、あらゆる立場の人が参加可能なワークショップツール「わかりづらい健康課題『みえない多様性』に優しい職場をつくる -Inclusive Workplace Design Toolkit-」を開発。各種ツールキットは、弊社公式ウェブサイトより無償でダウンロードできます。

「みえない多様性 PROJECT」WEB サイト：<https://www.lilly.co.jp/news/stories/henzutoo/nextstep>

周りにある「みえないつらさ」に気づき、理解することは、職場から不安やがまんをなくすことであると考えています。互いにわかり合うことで、一人一人が自分らしく働ける職場づくりを目指し、カードゲームを使ったワークショップ開催などの活動を行っています。2020年の発足以降、社内外でのワークショップはこれまで16回開催し、延べ約3900人が参加しました。

### ワークショップツール

### わかりづらい健康課題『みえない多様性』に優しい職場をつくる -Inclusive Workplace Design Toolkit-



職場で誤解されがちな言動の裏にある  
他者の痛みや不調を想像する「ストーリーカード」

### 外部アワード 表彰実績



#### Work story award 2021

主催：一般社団法人 at will work

#### 大学生が選ぶ Work Story 賞

“働き方を選択できる社会づくり”の実現を目指す一般社団法人 at Will Work 主催「Work Story Award 2021」にて「大学生が選ぶ Work Story 賞」を受賞、次世代の価値観にもフィットする取り組みとして評価。

※受賞ページ：<https://award.atwill.work/stories2021/392/>



#### <その他の受賞歴>

- HR アワード 2021 企業人事部門 入賞（後援：厚生労働省）
- GOOD ACTION アワード 入賞（主催：リクナビ NEXT）
- PR アワードグランプリ 2021 シルバー（後援：経済産業省）
- Lisbon PR award ショートリスト 入賞（国際アワード）